

## 2022 鈴鹿クラブマンレース S-FJ 鈴鹿シリーズ 第1戦

2022年 2月 27日 天候:晴れ 参加24台

今年も全国7サーキットで開催されるスーパーFJレースだが、その開幕戦となるレースが鈴鹿サーキットにて幕を開けた。

今年もベテランドライバーの参加、そして何よりも元気の良い若手ドライバーと新人ドライバーの活躍が目覚ましく、ハイレベルで見ごたえのあるレースが展開された。



今年最初のスーパーFJは鈴鹿サーキットから「鈴鹿クラブマンレース Round 1」として開催された。話題となったのは、今年からコントロールタイヤがダンロップに変更されたことだ。ダンロップから供給されるタイヤは、見た目こそ従来とまったく変わらないものの、やはりメーカーが違えば、特性には違いがあるはず。そこでチャンピオンとして継続参戦を決めた、岡本大地選手（FTK・レヴレーシングガレージ）にさっそく話を聞いてみた。

「いちばん違うのはピークのグリップ。ダンロップの方が1秒ぐらい速くて。グリップ感も強烈だし、横剛性もすごく感じられるんですけど、以前のタイヤと違うのは計測4周目、5周目ぐらいで、いきなり落ちちゃう。グリップダウンがある感じで、急にコンマ5秒落ちちゃうんです。そこが難しく、予選ではコンマ5秒落ちる前に、ピークを使わなきゃいけないので」  
コースの全長にもよるだろうが、鈴鹿の4~5周は時間にして10分程度ということになる。最近の予選は15分間で行われることが多いので、短いサーキットであれば、もう少し周回を重ねら

れようが、いずれにせよ計測時間をいっぱい使って、最後にベストタイムを出すという、従来の走り方が通用しなくなりそうだ。セッティングに変化は生じるのだろうか？

「タイヤ自体は横が硬くて、あんまりよじれないんです。横は倒れ込まない感じがするので、そこはすごくセットも変えましたし、変えなきゃタイヤに入力行かないようなセットになっています。今まではキャンバーをつければつけるほど良かったんですけど、そこの部分がちゃんと面が当たらないようになってきたので、だいぶ立てる方向になってきました。レーシングタイヤっぽくなってきたので、入門カテゴリーとしては少し難しくなったかもしれません」

セッティングに関しては、チームそれぞれ試行錯誤の最中だろう。だが、先に述べてもらったピークグリップの違いによる扱いは、ドライバーに負担を強いらせそうだ。例えば予選で赤旗が出たら、まだピークグリップが保たれているタイミングであっても、中断の間にタイヤが冷えて、もうタイムが出なくなる可能性もないとは言い切れない。だから岡本選手は「予選ではタイム差がつくけど、決勝はたぶん全員同じペースになるんじゃないかな、という気がします」と語っていた。果たして、実際のところは……。

#### 《公式予選》

開幕戦のエントリーは25台だったが、このうち1台が金曜日の練習でクラッシュしていたため、予選は1台減の24台で競われた。余談ながら、その1台が孤軍奮闘のR&D 10Vだったため、スーパーFJ 史上初めてのワンメイク状態、ミスト KK-SII 勢だけのレースともなった。

さて、そのタイムの出方は？ 昨年の開幕戦ポールは岡本選手で、その時に記された2分14秒080がターゲットタイム。最初の計測ラップでトップに立ったのは（森山）冬星選手（DIXCEL/ROYAL/MYST）で、まずは2分17秒708をマークする。計測2周目には冬星選手が2分13秒828で、引き続きトップを守るとともに、ターゲットタイムをクリア。そして計測3周目には2分13秒724に、わずかながらもタイムを詰めてきた。そして、残り6分を切ったところで、早くもピットに戻ってくる

一方、岡本選手は？ 少ないアタックラップを見越し、他のドライバーより遅れてコースイン。早々に戻ってくるドライバーもいるから、よりクリアラップが取りやすい状態だった。実際、冬星選手が戻ってきたタイミングが、岡本選手にとって計測3周目。そして2分13秒953で2番手に。ところが、さらにもう一発……というタイミングで1コーナーでコースアウトした車両があって、黄旗が提示される不運が。この周は諦め、計測5周目に再びトライした岡本選手だったが、タイヤのピークは過ぎて2分14秒267を出すに留まり、冬星選手に続く2番手となった。そして3番手から6番手には、鈴鹿シリーズ初参戦となる大木一輝選手（M2 KK-SII）、卜部和久選手（MYST KK-SII）、山本聖渚選手（MYST KK-SII.Team Sena）とフレッシュな顔触れが並び、それぞれタイムは2分14秒062、2分14秒703、2分14秒706をマーク。これに2年目の居附明利選手（SAccess Racing ES）が2分14秒715で、そして高木悠帆選手（MYST KK-SII）が2分14秒734で続いていた。

ちなみに上位陣はアウトラップを含め、5周から6周の周回に留めていたものの、中団以下は周回も多めで、かつ終盤にベストタイムを記していた。これはまあ、慣れの問題というか、岡本選手の指摘が正しかったことも示していよう。

ポールポジション：冬星選手（MYST KK-SII）

「今週末ずっと良かったので、タイムが出ることは分かっていたから、位置取りかなと思ってんですが、その位置取りもうまくいって、すべてがハマったかなという感じです。新しいタイヤはアタックだとめっちゃいいタイムが出るんですが、決勝でタレるのが問題で。岡本選手はタイヤがタレてからがうまいんで、なんとか粘れば勝てると思っています。岡本選手を倒して、勢いをつけたいですね。（苗字の森山を外して）冬星だけにしたのはまったく意味なくて、ただミスりました（苦笑）。勝てれば縁起がいいと、そのままにしようかと思っています」



予選2番手：岡本大地選手（FTK・レヴレーシングガレージ）

「狙いとしては良かったんですけどね、クリアラップもしっかり取れるし。でも、これからって時に黄旗が出ちゃって、セクター1だけ押さえて、セクター2と3で稼げば、もしかしたら超えられるかと思ったんですけど、ちょっと無理でしたね。リスク込みの作戦だったんで、仕方ないです。ロングのシミュレーション、昨日の練習2回目にして、かなり良かったので、仕掛けるタイミングも考えたりして、決勝には自信あります」



予選3番手：大木一輝選手（M2 MYST KK-SII）

「自分なりにはいいアタックができたんですが、セクター1とセクター4が全体ベストなのに、冬星くんには届かなかったのが悔しいです。自分的には新しいタイヤの方がクルマに合っている気がしていて、他のチームよりロングには自信を持っているので、決勝は落ち着いて走れば、必ずチャンスあると思っています。一昨年まで全日本カートをやっていたので、今年はしっかり四輪でも結果を残すシーズンにしたいと思っています」



《決勝レース》

予選と決勝レースのインターバルには通り雨があったり、吹く風は非常に冷た買ったりしたのだが、この時期としては異例とも言えるほど、この週末は柔らかい日差しに恵まれ、穏やかなコンディションとなっていた。予選同様、24台が臨んだ決勝レースは、10周での争いに。

スタートを決めたのは岡本選手だった。鋭いダッシュの後、イン側のラインを変えずにしっかり加速し、早々と冬星選手をパス。優るとも劣らぬロケットスタートで大木選手が、ふたりをアウトからかわそうとしたものの、行き場を失って軽くオーバーラン、この間に卜部選手と山本選手の先行を許すこととなる。

トップを奪われた冬星選手ながら、岡本選手に少しも遅れることなく続き、2周目の1コーナーではトップを奪還。その後を卜部選手が単独で追いかける。3周目には大木選手が4番手に浮上するも、山本選手と居附選手とのバトルはなおも続いていく。しかし、山本選手は後ろから迫ってきたドライバーに、シケインで接触されてコースアウト。復帰はなかったものの、順位を大きく落とす。



4周目、大木選手が1コーナーで3番手に浮上。直前にファステストラップを記していた勢いで、トップのふたりとの差も詰めていく。これに気づいた岡本選手は、満を辞して6周目のシケインで冬星選手をパス。次の周には冬星選手が再逆転を1コーナーで狙うも、岡本選手はしっかりガードを固めていた。

その後はトップの岡本選手が徐々に逃げる中、激しくなっていたのが冬星選手、大木選手、そして

ファステストラップ、2分14秒192を出していた居附選手の2番手争い。9周目の1コーナーで居附選手にかわされた大木選手は、セクター1での失速でこの争いから脱落するも、冬星選手と居附選手はなおもバトルを繰り広げる。最終ラップのスプーン進入で前に出た居附選手ながら、バックストレートで冬星選手が再逆転。



その間に、岡本選手は1秒4にまで差を広げトップでチェッカーを受けることとなった。

4位は予選8番手から3ポジションアップなった岸本尚将（Tamayura athle ABBEY KK-SII）が獲得し、大木選手、卜部選手の順でゴールした。

鈴鹿シリーズの第2戦は4月10日に、西コースで開催される。成長著しい若手ドライバーたちのさらなる躍進が見られるのは今回のレースから  
確実視されるところだが、一方で今年も岡本選手の進撃は続くのか、見どころは満載だ！





ウィナー：岡本大地選手（FTK・レヴレーシングガレージ）

「冬星選手の後ろで様子をしばらく見ていて、後ろを引き離してから勝負しようと思ったんですが、思ったよりも後ろの集団のペースが良かったんで、ちょっとやばいなと思って、仕掛けてきました。でも、いいところで抜けましたね。逃げ切れて良かったです！」

2位：冬星選手（MYST KK-SII）

「めっちゃ悔しいんですけど、けっこうデータは取れたし、開幕戦を2位で終わったということは、全然チャンピオンの可能性が残っているので。チャンピオンは絶対獲りますので、もう、この悔しさを糧に。こんな素晴らしいマシンを作ってくれたチームに感謝して、これからもしっかり練習して頑張ります」

3位：居附明利選手（SAccess Racing ES）

「ファストラップは出せました。予選はセッティングがあんまり出ず、行き当たりばったりでやっていたので、タイムは出せなかったんですが、決勝で改善できたので、タイムが伸びて良かったです。それだけに予選がもう少し良かったら、全然優勝も狙えたのに。残念です」







# 2022 SUZUKA CLUBMAN RACE



Organized by **AASC-SMSC**

№ 5

## S-FJ 公式予選

2022 / 2 / 27 10:07



暫定結果表

Weather : Fine

International Course 4-Wheels(5,807m)

Track : Dry

Pos	No	Name	Type	Tire	Team/Car	Best Time	Gap	Lap
1	56	冬星	KK-S II	DL	DIXCEL/ROYAL/MYST	2'13.774		4 / 5
2	8	岡本 大地	KK-S II	DL	FTK・レウレーシングガレージ	2'13.953	0.179	4 / 6
3	20	大木 一輝	KK-S II	DL	M2 KK-S II	2'14.062	0.288	3 / 6
4	87	卜部 和久	KK-S II	DL	MYST KK-S II	2'14.703	0.929	5 / 6
5	68	山本 聖渚	KK-S II	DL	MYST KK-S II . TeamSena	2'14.706	0.932	3 / 6
6	39	居附 明利	KK-S II	DL	SAccess Racing Es	2'14.715	0.941	5 / 6
7	61	高木 悠帆	KK-S II	DL	MYST KKS II	2'14.734	0.960	4 / 6
*1 8	34	清水 啓伸	KK-S II	DL	DragoCORSE	2'14.795	1.021	5 / 9
9	51	岸本 尚将	KK-S II	DL	Tamayura athle ABBEY KKS II	2'15.007	1.233	7 / 8
10	12	小川 涼介	KK-S II	DL	M2 KK-S II	2'15.098	1.324	4 / 7
11	55	板倉 慎哉	KK-S II	DL	AMORE TOKYO☆表参道☆KKS II	2'15.115	1.341	6 / 8
12	7	中平 凌央	KK-S II	DL	FTK・レウレーシングガレージ	2'15.541	1.767	8 / 9
13	19	松田 大輝	KK-S II	DL	K-TACK MYST KK-SII	2'15.605	1.831	7 / 9
14	69	鶴岡 秀磨	KK-S II	DL	MYSTゼンカイレーシングKKS2	2'16.224	2.450	5 / 6
15	1	元山 泰成	KK-S II	DL	Ecotech Racing	2'16.537	2.763	5 / 7
16	24	碓井ツヨシ	KK-S II	DL	C.O.B-KART	2'17.450	3.676	4 / 5
17	21	太田 浩	KK-S II	DL	ミスト・セキグチ・制動屋	2'17.696	3.922	7 / 8
18	10	小合 将司	KK-S II	DL	LOVCA teamNoel F.Tworks	2'17.747	3.973	5 / 6
19	70	南部 和哉	KK-S II	DL	タイヤカス レブリ KK-S II	2'17.888	4.114	6 / 8
20	60	前田 樹	KK-S II	DL	NAVY AUTO	2'18.017	4.243	4 / 6
21	9	上吹越 哲也	KK-S II	DL	FTK・レウレーシング	2'18.021	4.247	4 / 9
22	5	高橋 浩史	KK-S II	DL	BBK☆レウレーシング	2'18.794	5.020	8 / 8
23	98	天谷 伶奈	KK-S II	DL	スキルズヒートKKS II	2'20.602	6.828	7 / 9
24	71	ハヤシ ヒロキ	KK-S II	DL	ZENKAIRACING真不同MURB遊技関連	2'21.188	7.414	5 / 7

\*\*\*\*\* 以上予選通過 (2'54.108 - 130%) \*\*\*\*\*

## S-FJ 決勝

2022 / 2 / 27 15:55



正式結果表

Weather : Fine

International Course 4-Wheels(5,807m)

Track : Dry

Pos	No	Name	Type	Tire	Team/Car	Lap	Total Time	Gap	Best Time
1	8	岡本 大地	KK-S II	DL	FTK・レウレーシングガレージ	10	22'29.717		2'14.383
2	56	冬星	KK-S II	DL	DIXCEL/ROYAL/MYST	10	22'31.134	1.417	2'14.384
3	39	居附 明利	KK-S II	DL	SAccess Racing Es	10	22'31.231	1.514	2'14.192
4	51	岸本 尚将	KK-S II	DL	Tamayura athle ABBEY KKS II	10	22'38.962	9.245	2'15.101
5	20	大木 一輝	KK-S II	DL	M2 KK-S II	10	22'40.040	10.323	2'14.273
6	87	卜部 和久	KK-S II	DL	MYST KK-S II	10	22'41.462	11.745	2'15.556
7	55	板倉 慎哉	KK-S II	DL	AMORE TOKYO☆表参道☆KKS II	10	22'41.834	12.117	2'14.941
8	34	清水 啓伸	KK-S II	DL	DragoCORSE	10	22'42.549	12.832	2'15.104
9	12	小川 涼介	KK-S II	DL	M2 KK-S II	10	22'48.801	19.084	2'16.150
10	1	元山 泰成	KK-S II	DL	Ecotech Racing	10	22'49.086	19.369	2'15.628
11	19	松田 大輝	KK-S II	DL	K-TACK MYST KK-SII	10	22'56.040	26.323	2'16.126
12	7	中平 凌央	KK-S II	DL	FTK・レウレーシングガレージ	10	22'57.456	27.739	2'15.711
13	68	山本 聖渚	KK-S II	DL	MYST KK-S II . TeamSena	10	22'58.038	28.321	2'15.337
14	69	鶴岡 秀磨	KK-S II	DL	MYSTゼンカイレーシングKKS2	10	22'58.528	28.811	2'16.363
15	21	太田 浩	KK-S II	DL	ミスト・セキグチ・制動屋	10	22'59.089	29.372	2'16.506
16	24	碓井ツヨシ	KK-S II	DL	C.O.B-KART	10	23'14.161	44.444	2'18.176
17	60	前田 樹	KK-S II	DL	NAVY AUTO	10	23'14.550	44.833	2'18.061
18	10	小合 将司	KK-S II	DL	LOVCA teamNoel F.Tworks	10	23'15.069	45.352	2'18.017
19	9	上吹越 哲也	KK-S II	DL	FTK・レウレーシング	10	23'22.016	52.299	2'18.402
*1 20	61	高木 悠帆	KK-S II	DL	MYST KKS II	10	23'27.840	58.123	2'15.177
21	5	高橋 浩史	KK-S II	DL	BBK☆レウレーシング	10	23'28.092	58.375	2'19.095
22	70	南部 和哉	KK-S II	DL	タイヤカス レブリ KK-S II	10	23'28.428	58.711	2'19.115
23	71	ハヤシ ヒロキ	KK-S II	DL	ZENKAIRACING真不同MURB遊技関連	10	23'53.006	1'23.289	2'20.699
24	98	天谷 伶奈	KK-S II	DL	スキルズヒートKKS II	10	23'54.524	1'24.807	2'21.225

\*\*\*\*\* 以上完走 (規定周回数 9Laps) \*\*\*\*\*

